



夏にらの出回りが本格化 にら主産県（栃木・茨城・山形）が合同でPR！

にら主産県合同試食宣伝会

- 期日：6月13日(火)
- 場所：大田市場 東京青果(株)、荇原青果(株)
- 主催：JA全農とちぎ、JA全農いばらぎ、JA全農山形
- 内容：栃木県、茨城県、山形県産にらの紹介や試食宣伝等

■H28年都中央入荷量占有率は3県合わせて78%！

これから夏にらの出回りが本格化する主要3県連（栃木、茨城、山形）が連携して消費拡大をアピールするために、合同で試食宣伝会を開催しました。

H28年夏にら（5月～10月）の都中央入荷量は、1位が栃木県（占有率30%）、2位が茨城県（同28%）、3位が山形県（同20%）であり、今回の上位3県で78%を占めています。（群馬県は7位で占有率は2%）

今年の生育は3県ともに良好で、平年並かそれ以上の出荷を見込んでいます。当日は、市販の麺つゆを利用した「にらのおひたし」が用意され、3県それぞれのにらを食べ比べることができました。柔らかく、香りが良いこれからの夏にらの食味の良さを市場関係者に積極的にPRしていました。

■各県のにらを積極的にPR！

栃木県は、県内全域で栽培されており、全国第2位の生産量を誇っています。11～4月に収穫される冬にらと5月～10月に収穫される夏にらがあり、1年を通して生産されています。今回はレシピ集とともに夏にらの食味の良さをPRしていました。

茨城県は「JA新ひたちの」を中心に年間を通して生産されており、品質や安全・安心にこだわったにらづくりをしています。特に、美野理地区では堆肥を積極的に活用しており、H17年からは広い葉幅と肉厚のものを厳選し「美野理緑王」として出荷されています。

山形県は昭和55年頃に内陸の最上地方を中心に栽培が始まり、以降、面積・生産量を伸ばし平成4年には露地にらで全国トップになりました。最上地域で栽培される「達者 de 菜（たっしやでな）」というブランド名がつけられたにらは、柔らかく食味が優れていると評判です。



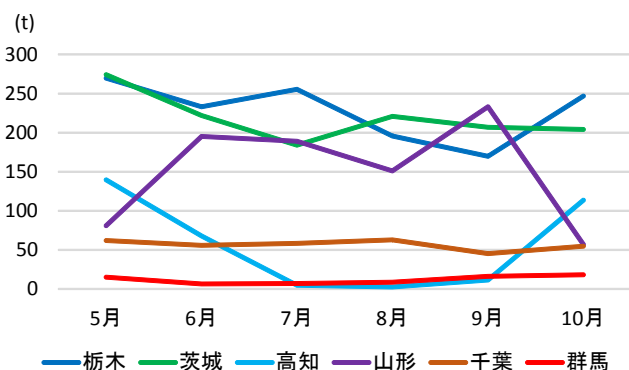
東京青果(株)試食宣伝の様子



荇原青果(株)にら展示の様子



試食品：にらのおひたし



H28年にらの都中央入荷量（5～10月・産地別）